

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870105487
法人名	医療法人 福井整形外科・麻酔科
事業所名	グループホーム杜の里
所在地	松山市鷹子町185番地1
自己評価作成日	平成25年9月28日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成25年10月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

当グループホームの基本理念である「あせらず あわてず あきらめず」「手の届く 目の届く 心の届く 生活を支援します」を大切に、職員が一丸となって利用者様と真の家族のような信頼関係が築けるように日々過ごしています。協力医療機関が母体である為に、日常的な健康管理に対するのバックアップも安心でき、最後までお付き合いができるように介護技術の向上を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

地域の子供達が行なう夏休みのラジオ体操の場所に、事業所の庭を提供されている。事業所の畑は、地域の方に教えていただいたり、手伝ってもらいながら、野菜作りをされている。5月に事業所でバザーを行った際には、地域に向けて50～60枚ほどのチラシを配布して参加を呼びかけ、地域の方達と一緒に松山大学の吹奏楽の演奏を聞いたり、写真を展示して笑顔で暮らしておられる利用者の様子をみていただいた。
ご家族が玄関の壁に季節ごとに飾り付けてくださっており、調査訪問時には、菊の花やハロウィンの飾りになっていた。ご家族には、毎月「杜の里だより」にて行事や取り組みについて報告されており、利用者個々の担当職員からの手書きの手紙を同封されている。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホーム杜の里

(ユニット名) ふきのとう

記入者(管理者)

氏名 佐伯 伸治

評価完了日

平成25年9月28日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	<p>理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	(自己評価)	
			<p>利用者様のペースに合わせて実践できるように努めている。職員のペースになり実践できていない事もあるので、もっと協力していく必要があると感じる。</p>	
			(外部評価)	
			<p>基本理念に、「あせらず あわてず あきらめず」「手の届く 目の届く 心の届く 生活を支えます」と掲げておられ、新人職員には、管理者から説明されている。管理者は、今後さらに、「職員が忙しい時こそ、理念に立ち戻って考えられるよう職員と話し合っていきたい」と話しておられた。</p>	
2	2	<p>事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	(自己評価)	
			<p>日常的にとまでは関係をもていないが地域行事へ積極的に参加したり、ホームのバザーを毎年開催し地域との交流を図っている。</p>	
			(外部評価)	
			<p>地域の子ども達が行なう夏休みのラジオ体操の場所に、事業所の庭を提供されている。事業所の畑は、地域の方に教えていただいたり、手伝ってもらいながら、野菜作りをされている。5月に事業所でバザーを行った際には、地域に向けて50～60枚ほどのチラシを配布して参加を呼びかけ、地域の方達と一緒に松山大学の吹奏楽の演奏を聞いたり、写真を展示して笑顔で暮らしておられる利用者の様子を見ていただいた。</p>	
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	(自己評価)	
			<p>包括支援センターの協力を得て、認知症高齢者についての勉強会を開催したり、近隣の方の相談に対応したり、少しずつではあるが発信できるよう努めている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告や 話し合いを行い、そこの意見をサービス向上 に活かしている	(自己評価) 運営推進会議では評価後の今後の取り組み目標・達成状況 を報告する機会も設けている。地域の方々からの提案・意見 を多く頂き、サービスに反映出来るよう努めたい。	
			(外部評価) 会議には、民生委員の方やご家族が参加されており、管理 者が会議内容を考えて開催されている。会議は、事業所の バザーや年2回の消防訓練と併せて行なわれたり、会議形 式の際には、現況報告を行なっておられる。県内に住むご 家族に会議案内を出しておられ、現在は決まったご家族1名 のみの参加となっている。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事 業所の実情やケアサービスの取組みを積極的 に伝えながら、協力関係を築くように取り組ん でいる	(自己評価) 運営推進会議に参加していただいた際に、相談を行ったり、 情報を頂いたりする機会はある。	
			(外部評価) 運営推進会議と「杜の里バザー」とを併せて行なった際 にも、市の担当者の方が参加してくださり、事業所の取組み や利用者の様子等を見ていただいた。会議には、流行して いる感染症についての情報提供がある。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における 禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解 しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしな いケアに取り組んでいる	(自己評価) ミーティング時の勉強会で身体拘束について学び、身体拘 束をしないケアに努めている。特に帰宅願望がある利用者 については、一緒に外に行き気分が落ち着かれるようにして いる。	
			(外部評価) 転倒を繰り返す利用者の方には、センサーマットを使用して 職員は気を付けて見守るようにされているが、現状は安定し ているようだ。今後さらに、利用者の現状等の把握に努め て、利用者の安全で自由な暮らしに向けた支援に工夫を重 ねていかれてほしい。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価)	
			ミーティング時に勉強会を開き、学んだ事を忘れず職員個々に注意を払い防止に努めている。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	(自己評価)	
			ミーティング時に勉強会を開き、学んで必要性のある入居者については、活用し援助が出来ている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価)	
			契約時は契約書に沿って説明・相談を行っている。又、契約以前から契約後も随時ご家族の不安や疑問に関してお話しして頂けるような関係作りに努めている。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価)	
			ケアプランの確認を頂く際、来荘いただけのご家族には直接説明し、ご家族からのご意見・要望をうかがっている。なかなか来荘されないご家族にも文面にてケアに対する要望を頂き、サービスに反映出来るよう取組んでいる。	
			(外部評価)	
			ご家族が玄関の壁に季節ごとに飾り付けして下さっており、調査訪問時には、菊の花やハロウインの飾りになっていた。ご家族には、毎月「杜の里だより」にて行事や取り組みについて報告されており、又、利用者個々の担当職員からの手書きの手紙を同封されている。ご家族来訪時には、利用者の日々の様子を伝えて、ケアや暮らしについての要望を聞くようにされているが、遠方に住むご家族についても今後さらに意見や要望を引き出す取り組みに工夫を重ねていかれてほしい。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) ミーティングでの話し合いではそれぞれ意見し話し合っているが、個人的な意見や提案などは前進せず、途中どまりのことが多く見受けられ反映されていないと感じる。	
			(外部評価) 日々の中で出された職員の意見について、ミーティング時等にすべての職員で話し合うようにされている。職員からの法人への要望や意見については、管理者がその都度伝えるようにされている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 勤務に無理のないように個人の希望に応じた体制を作ってもらっているため、各自が働きやすい職場環境だと思う。	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) ミーティング時には勉強会を開き色々な事を学ぶことが出来ている。外部での研修は全員が年間1回は何らかの研修に参加できるよう予定を立てて参加している	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) グループホーム同士の相互研修にて色々なところを見る機会があるのでサービスの質向上になっていると思う。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) サービス提供前に、利用者様としっかりと面談を行い、不安なく生活の場所が移動できるように努めている。また、これまでの関係者の方にも協力が得られるような連携作りを行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	(自己評価)	<p>サービス提供前にご家族とゆっくり面談できる時間を持ち、ご家族の不安や、グループホームでどのように生活を送って欲しいかなどのご希望を聞き取れるよう話し合えるよう努めている。</p>
17		<p>初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	(自己評価)	<p>入居相談時に、グループホーム内だけのサービスにだけでなく、買い物・理髪・通院・リハビリなど必要なサービスが受けられるよう相談し、支援に努めている。</p>
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	(自己評価)	<p>利用者の知恵や生活歴を活かし、それを聞き出しながら持ちつ持たれつの関係ができるよう、職員も意識し、支援に努めている。</p>
19		<p>本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	(自己評価)	<p>ご家族の方も一緒に外出に出かけたり、ホームの行事に参加して下さっている。来所時にはホーム内で一緒にお茶を飲んで過ごされたり、介助して下さったり、職員共々支援して頂いている。</p>
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	(自己評価)	<p>長年友人である方が、不定期で来所して下さりその方の若い頃の話などをお聞きして関わりを続けていけるよう支援している。</p>
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 自発的に利用者ご自身が他の利用者に声を掛ける事が少なく又、関わりを持つ事が苦手な方もおられるので職員が間に入り関わりを作るよう支援している。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退去後も状況に応じ必要な支援・相談ができる関係作りに努めている。	
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々利用者様と接し、把握できた事をスタッフ間で共有し、ケアに生かせるよう努めている。一人一人のペースを大切にし、無理のないように支援を行っている。	
			(外部評価) 「24時間生活変化シート」に利用者の生活の様子を記録して、ご家族来訪時にみてもらっている。耳の不自由な利用者とはホワイトボードを使って筆談し、利用者との意思疎通を図っておられる。	管理者は、利用者の重度化を見据えて、さらにご家族との関係を深められるよう取り組み、利用者のこれからの暮らしについて一緒に考えながら支援していきたいと話しておられた。今後はさらに、利用者の希望等も踏まえて、ご家族とともに支援をすすめていかれてほしい。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 利用者に関わるなかで知り得た事や、ご家族の方々からの情報によりその方の暮らし方や生活環境などの把握に努めている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 24時間シートを利用し、その日にいなかいった職員は必ず目を通すようにしている。不足があれば申し送りノートを活用している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) ミーティング時に職員同士で意見を出し合いケアプラン作成に役立っている。ご家族にも確認して頂き要望や意見があれば作り直しをして、あまり無理のない計画を作成している。ご家族が来荘された際にお話を聞き、その方々の思いがなるべく届くように努めている。</p> <p>(外部評価) 毎月、職員で介護計画の中から一番重要と思われる項目を選び力を入れて取り組むようにされている。介護計画は、3ヶ月ごと、又、利用者が退院した時等、状態変化時に見直しておられる。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 24時間シートや申し送りノートの活用をしている。充分とは言えないが、職員間での情報の共有が出来ている。</p>	
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 一人一人のニーズに応えられるように家族と相談・協力しながら、要望の実現に向けて取り組んでいる。</p>	
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 町内の方々の協力を得ながら、地域行事への参加や買い物など地域の中で安心した生活が送れるよう支援に努めている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	(自己評価)	<p>入居前から通っていた病院に定期的に通院されている方もおられる。定期的な往診もあり、家族の希望を大切に適切な医療を受けられるよう支援に取り組んでいる。</p>
			(外部評価)	
31		<p>看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	(自己評価)	<p>週1回の医療連携の日に報告と相談が出来ている。日々の日常生活のなか異常が起きた場合にも看護職や医師に連絡して受診をするように支援している。</p>
			(外部評価)	
32		<p>入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	(自己評価)	<p>利用者の方が入院された際、利用者が安心して治療を受けられるように医療関係者との関係を連携や相談していき職員が十分な配慮をしている。</p>
			(外部評価)	
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	(自己評価)	<p>ご家族の方と重度化した時や終末期について、話し合い職員で出来る事を相談しながら方針を共有し関係者と共にチームで支援に取り組んでいく事が本人様にとっていい生活が出来よう支えている</p>
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価)	
			急変時や発生時に備えて手当の事や連絡すべきところを把握している。対応の訓練をミーティング時に行い実践力を身に付けている。訓練を実践できるように、冷静な対応が出来るように心がけている。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価)	
			年に2回消防の方の指導の下、避難訓練を実施している。又、災害時対策マニュアルを作成しており、空いた時間に見れるように他のマニュアルと同様にファイルに挟んでいる。	
			(外部評価)	
			3月には、消防署の協力を得て夜間の火災を想定した避難訓練を実施された。消防士の方からは、「近隣の方と助け合える関係を作ってはどうか」とアドバイスをいただいた。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価)	
			個々に合わせて声かけを行い、距離をとりすぎずそれぞれの人権を尊重した対応を心がけている。	
			(外部評価)	
			調査訪問時、職員は、利用者の側に座り、ゆっくりとしたペースで笑顔で話しかけている様子が見られた。排泄の声掛けの時は、耳元で小さな声でお誘いする等して配慮されていた。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価)	
			ご本人の意思を尊重し、希望を叶えられるように声かけなどに工夫している。又、日頃の会話のなかでどんな思いや希望を持たれているかをヒントにしご家族にお伝えしたり、お話を聞かせて頂き支援できるように心がけている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価)	
			個人の生活のなかでのペースを優先し一人一人との会話の時間を大切に無理のないよう日中どのようにすれば楽しく過ごせるかを考えて、外出したりするようにしている。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価)	
			更衣するときにはどんな洋服を着たいのか、どのような色が好みなのかをお聞きし身だしなみやおしゃれが出来るよう鏡を見て頂きどのようにしたいかを声かけし、髪型などブラッシングする時に決めて頂いている。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価)	
			旬の野菜を使ったり、希望を聞いて献立作りをしている。出来る方には調理の手伝いをしてもらっている。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(外部評価)	
			利用者のリハビリの日等には、調理専門の職員が2ユニット分の食事を作るようになっている。男性職員が食事を作る時には、利用者が手伝ってくれるような場面もあるようだ。調査訪問時の昼食の折には、食べにくそうな利用者に職員は、「スプーンにしましょうか」と耳元で聞いておられた。蕎麦を食べに行かれた際には、利用者はとても喜ばれたようだ。ピザを宅配されたこともあり、飲み物に浸しながら食べた方もいるようだ。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価)	
			24時間シートにて、食事量や水分量の確認を行っている。水分の不足しがちな方には好みの飲み物を把握しお出ししたり、こまめに少しずつ摂取して頂けるよう支援している。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価)	
			口すすぎの出来ない利用者にも歯ブラシやスポンジブラシ等で歯茎や義歯を磨き個々に応じて口腔ケアを行っている。介助が必要な方に対してはケアができていたが自立している方への支援があるそかになっている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 訴えない方は、表情や動きを見て職員が声かけし、トイレ誘導している。立位の取れない方においても2人での介助を行いトイレでの排泄を行っている。マッサージや腹圧をかけてトイレで排泄できるようにしている。	
			(外部評価) ご自分の力で排尿し難い方には、母体医療機関の看護師の指導のもと、職員がお腹を押さえながら排尿を促し支援されている。トイレ内に鈴を付けて、利用者が必要時に鳴らし、職員を呼べるようにされていた。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 寒天、果物、野菜ジュースを取り入れた水分摂取、おやつや食事で食物繊維を多く含んだ物を取り入れたり、入浴時等にマッサージをしたりして支援している。	
			(外部評価)	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 体調を確認しながら概ね2・3日に1回は入浴していただいている。入浴剤を使ったり、一人一人好みの温度のお湯に入れるように調整も行なっている。	
			(外部評価) 入浴にお誘いしても、利用者のほとんどの方が、「めんどくさい」と嫌がるが多く、職員は、「今、ちょうどいい湯加減ですよ」等、と声かけを工夫して入浴につなげておられる。管理者は、拘縮のある利用者も浴槽で温まれるように考えていきたいと話しておられた。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 利用者のその時々々の状況に応じ居室で休息を取って頂いている。夜間不眠になりがちな方には、昼夜逆転にならるように昼間のかかわりかたを工夫し、支援している。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価)	利用者それぞれの薬の説明書のファイルを作成しており、常に見れる場所に保管している。服薬、副作用の理解について全職員がより理解できるように努めている。
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価)	役割に関しては一部の方に偏ってはいるが、食事の片づけ等の手伝いもして頂いている。一人一人に合わせてそれぞれに何ができるのかを考えながらの支援が必要だと思う。
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価)	ご本人の希望を踏まえ、ご家族のご協力も得ながら出来る限り出かけられるように支援している。
			(外部評価)	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価)	一部の人ではあるが、一人一人の能力に応じそれぞれにお金を持ったり、その時にお金をお渡し使えるように支援している。
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価)	利用者から希望があればご家族へ連絡をしてお話して頂いている。手紙を書かれた時はポストに投函している。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価)	
			季節の花を食卓に飾ったり、壁には季節にあった飾り付けを行なっている。空調の調整や掃除も注意して行っており、椅子など歩行時の妨げになる物は机の下にしまうなどの配慮を行なっている。	
			(外部評価)	
			居間は、木のぬくもりを感じられるような空間で、地域の方からいただいたピアノを置いておられ、5月のバザー時の写真を掲示しておられた。玄関先等に乱雑さも目立つが、玄関まわりは事業所の印象でもあり、利用者やご家族等と協力し合って整頓等されてはどうか。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価)	
			利用者様がそれぞれにソファにてテレビを見たり、リビングの椅子に座り新聞や雑誌を読んだりされたりと自由に過ごされている。	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価)	
			家族様の写真を貼ったり、花を飾ったりしている。また昔から使っておられた家具やラジオ等を使用している。	
			(外部評価)	
			居室にご自宅から持ち込まれた家具や仏壇、ご家族の写真を置いている方も見られた。段ボールに物を入れたままの方も見られる。今後さらに、利用者やご家族とも話し合いながら、利用者の居心地のよい居室環境作りに向けた取り組みをすすめていかれてほしい。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価)	
			居室の入り口やリビング、廊下、トイレなど必要な所に手すりやスロープを設置している。必要な方にはベッドにすべり止めマットを使用したり、センサーマットを使用し転倒予防に努めている。	